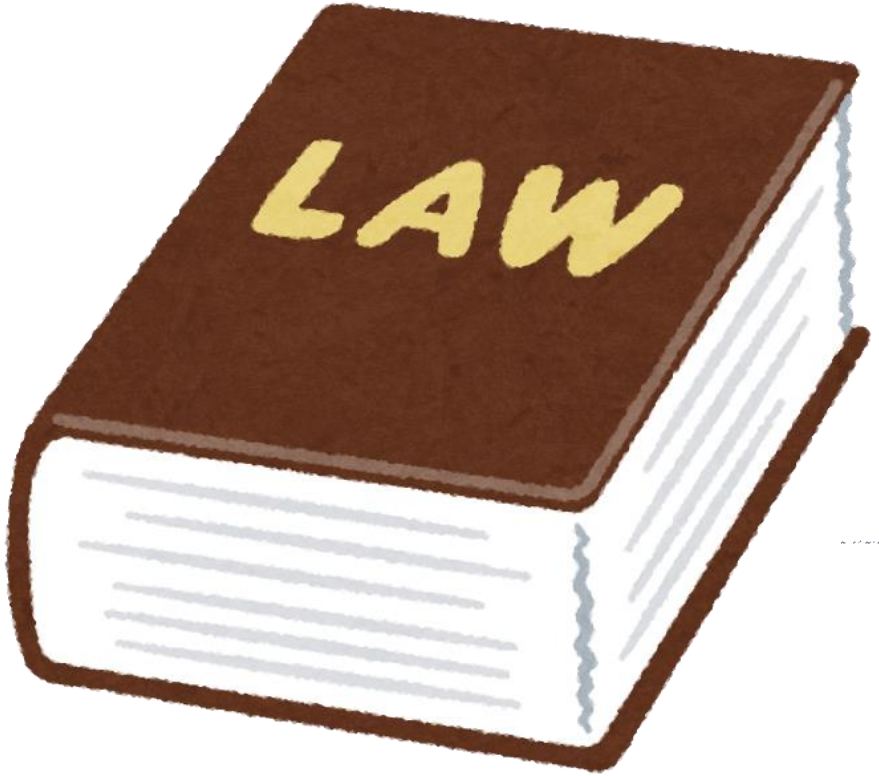
ナポレオン時代

アリステア・ホーン　著　大久保庸子　訳
（中公新書　2017年）302ページ
220781169　野畑駿太朗

目的　・ナポレオンの時代とナポレオンが残したもの

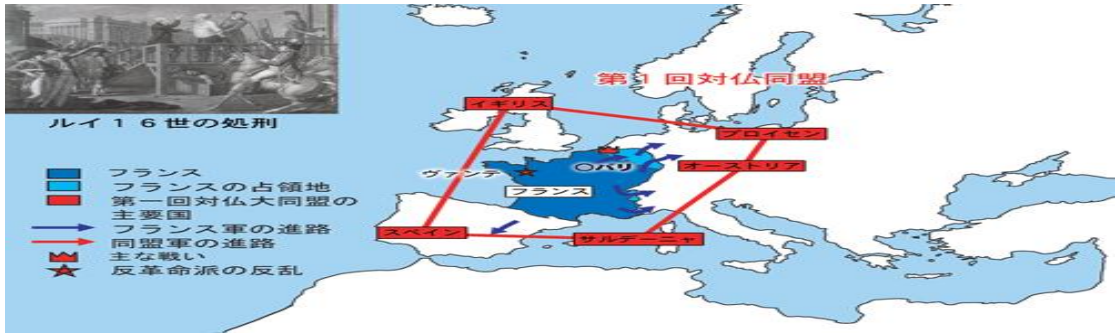


第一章　ナポレオンの始まり

- ナポレオンが生まれた当時のフランスは、軍隊の昇進の決め手は才能や実力ではなく、
- 「生まれ　＝　どんな家に生まれたか」
- ナポレオンは普通の貧相な若者だった。

- 数学が得意でみんなから「やせっぽちの数学屋」と嘲笑されていた。
- フランスは当時、周りの国と戦争していた。
- ナポレオンの上司はあまり戦争が得意ではなかった。

- そんな時ナポレオンが戦略を提案し、絶対に負けると思われていたイギリスを撃退した。
- ナポレオンは戦いで勝ったため２４歳でイタリア方面軍隊の砲兵司令官になった。
- フランス内部内でも暴動が起こっていたが、ナポレオンは躊躇なく暴動を起こした人に大砲を当てた。
- 反乱を鎮圧して２７歳でフランス軍司令官に。
- フランスは当時対仏大同盟という周りが敵だらけ



- 指揮官は生まれが優秀でも戦争はうまくなかった。
- フランス政府は、身分・学歴・年齢に関わらず優秀な人を将軍に登用した。
- ナポレオンはそれを終わらせてフランスは平和に。
- ナポレオンはこれまでの功績が認められ1804年に戴冠式が行われフランスの皇帝になった。

第二章　ナポレオンの女性観

- ナポレオンはすごく男女差別をする人だった。
- ナポレオン法典にはこの考えが大きく採用され、女性の権利の多くが剝奪された。
- 自分の部下からは、「彼は思い出したように人を愛する、つまりその人物が必要なときにだけ」といわれている。
- そんなナポレオンは２７歳の時、貴族のジョセフィーヌ・ド・ボアルネと結婚した。

- ジョセフィーヌはすごい浪費家で年齢も偽っていた。しかもナポレオンが戦争中に浮気をしていた。
- それを知ったナポレオンは色々な人と浮気をした。
- それでもナポレオンにとってジョセフィーヌは生涯で一番好きだった人だった。
- ナポレオンはジョセフィーヌの事が好きで、一方通行のラブレターをたくさん送った。
- だけど、ジョセフィーヌは一度も返事を送らず、会いにも行かなかった

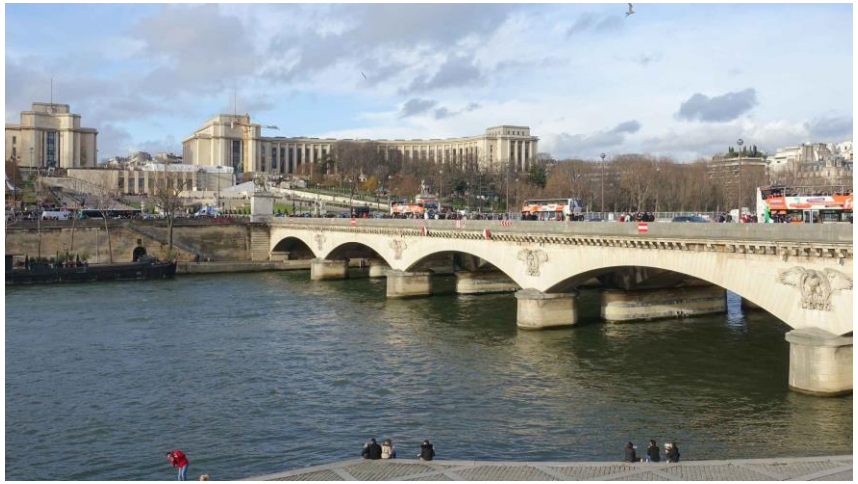
- 手紙の中でナポレオンは「ただ一人の愛おしいジョセフィーヌ…君は何という不思議な力を与えることか…」と綴っている
- それでも、ジョセフィーヌは一度も返事を送らず、会いにも行かなかった。
- 二人には子供が出来ず、離婚することになったが、ナポレオンは島流しにされ、死ぬ直前になっても「本当に彼女を愛していた…彼女は持っていたのだ最高の…」と語っている。

第三章　ナポレオンが創ったもの

- ナポレオンは平和な時にパリを「存在しうるどの都より美しい都」にすると宣言した。
- まず、手紙や指令書などをどこからでも放射状に伝達網と郵便網を走らせた。
- 次に、ナポレオン美術館（今のルーブル美術館）の改装工事や古い建造物を一掃した

- 今でもフランスを代表するエトワール凱旋門やカルーゼル凱旋門を作った。
- セーヌ川に架かるアウステルリッツ橋（現オーステルリッツ橋）やイエナ橋を作った。
- ウルク川からの運河やシャイヨー宮、ラシェーズ墓地も作成し、ラシェーズ墓地にはショパンやオスカー・ワイルド（幸福な王子を書いた人）などさまざまな有名人が眠っている。

- オーステルリッツ橋

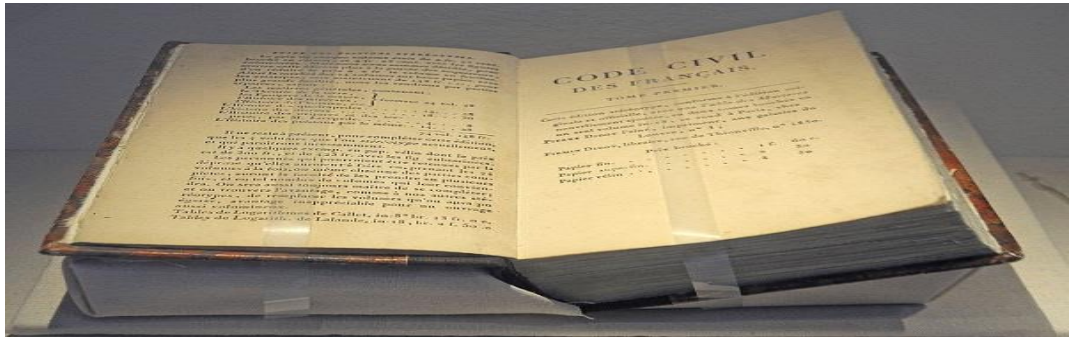


イエナ橋

シャイヨー宮

ラシェーズ墓地

＋　ナポレオン法典



- ナポレオンの業績の中で最もすごく、不朽のもの。
- 男性の権限について重きを置かれており、大体の家族の決定権が夫によるものとされている。
- 法の下の平等、個人の自由、信仰の自由、私的所有権の不可侵などがかいてある。
- 「私の真の栄光は４０の戦いに勝利したことではなく、私が手掛けた民法典である」と言った。

第四章　帝国の様式

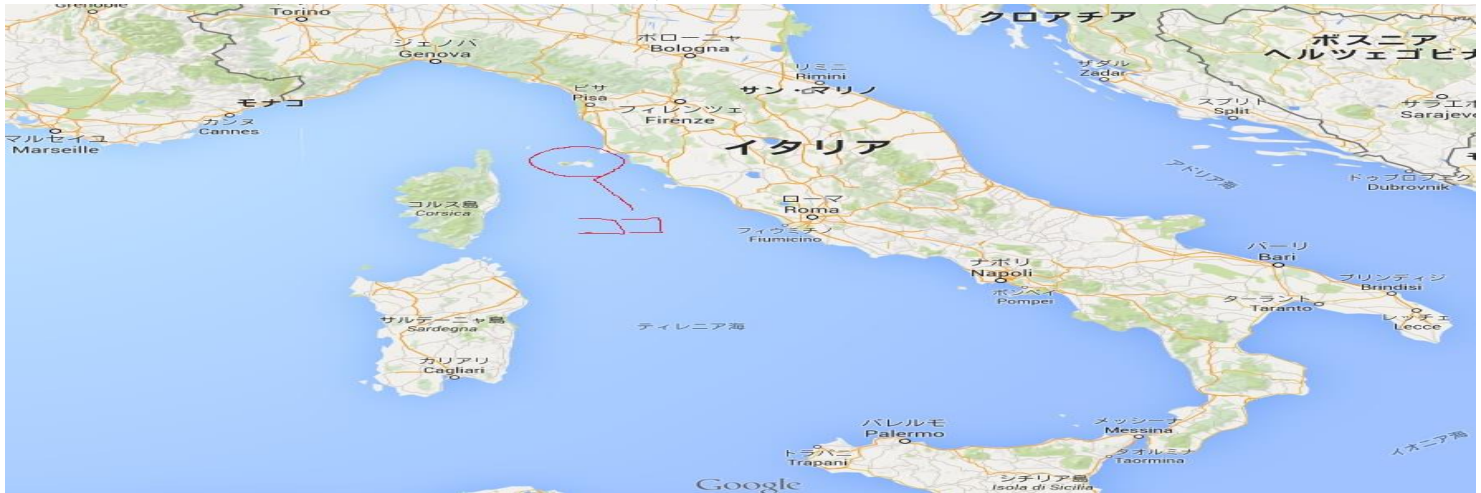
- 帝政期のファッションはハイウエスト・胸元が深くあいたドレス・スケスケのブラウスが流行っており、ジョセフィーヌが当時のファッションリーダーだった。
- 食事時間も改正されていき、夕食の時間が午後四時開始から午後７時開始と現代風になった。
- ナポレオンは数学が得意だったこともあり、化学分野への支援を厚くし、進歩を遂げたが、芸術の分野に関してはすごいと呼ばれる作品は生まれなかった。

１９世紀

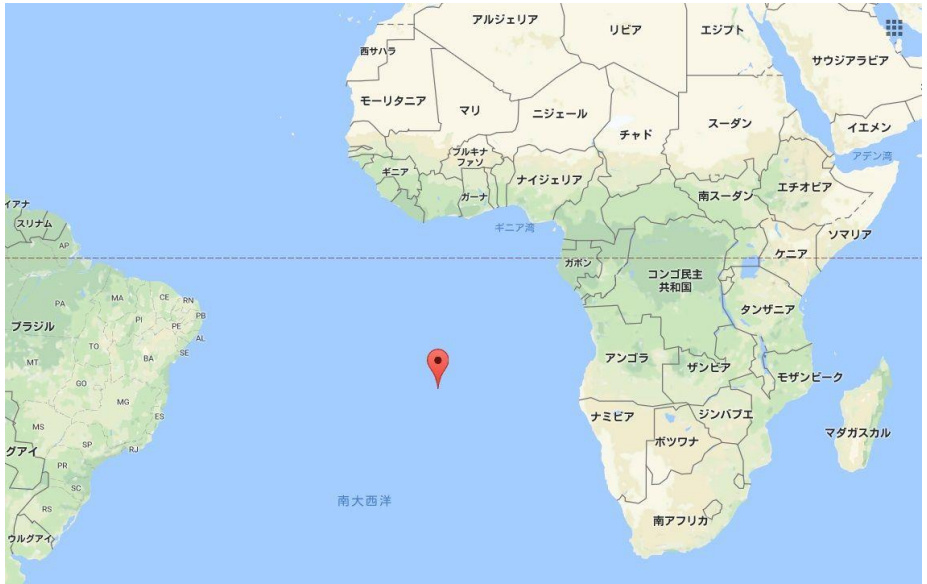
- １７世紀　→　ジョセフィーヌ

第五章　ナポレオンの終わり

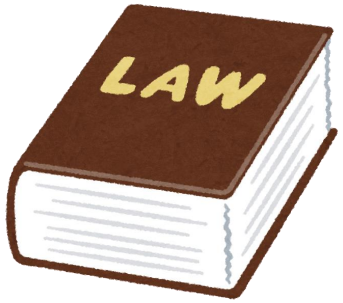
- ナポレオンは度重なる戦争の敗北の責任を負われてよりエルバ島に島流しになった。
- しかし、ナポレオンは部下の助けもあり、エルバ島を脱出してまたパリに帰ってきた。
- ナポレオンが帰ってきたとき、みんな帰還をあっさりと認めた。



- そして戦争を起こしたけれどまた負けてしまい、フランスからもっと遠い島に流されてしまった
- このことを百日天下と言い、コレリ・バーネットは「冒険者としての彼の生涯なら正真正銘の冒険物語にも見劣りしない」と語っている。
- その後ナポレオンの長男が引き継いで皇帝をしたが上手くいかず、フランス第一帝政は崩壊した。



終章　結論



- ナポレオンが自然死か殺害されたのかはまだ分かっていない。
- ナポレオンの最大の遺産は社会平等の考えと特権の廃止とされており、君主制と封建制を打破したかったとされている。
- ナポレオンが作ったナポレオン法典は、その後ヨーロッパ各国のモデルとなり、フランスで修正や補充がなされて現在も使われている。

終了